

- 越後平野の自然の価値や魅力を活かした地域の活性化、地域づくりに関するご意見や情報を有識者をはじめとする皆様から頂くために、推進協議会の下部組織として自然環境活用部会を設立（令和4年12月）
- 自然環境活用部会は、指標種をはじめ水辺に係る地域資源を活かした自然の価値や魅力といった地域振興・経済活性化を目指し、生態系ネットワークの重要性及び認知度を向上させるための普及啓発、広報、イベント、環境学習などの取組みを検討し、地域の賑わいづくりを推進することを目的とする。

【概要】

■開催日時

令和5年7月21日（金）13:30～16:00

■プログラム

1. 開会
2. 議事
 - (1) 第4回協議会・第2回自然環境活用部会の報告
 - (2) 地域づくりや利活用に関するご意見を踏まえた方策案
 - (3) 福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト実証実験
 - (4) 国機関の取組
 - ・環境省（OECM・自然共生サイトについて）
 - ・農林水産省（農林水産省生物多様性戦略について）
 - ・国土交通省（えちごエコネットにおける国土交通省の取組）
 - (5) 行動計画（2030）の骨子（案）について
 - (8) その他
3. 閉会



自然環境活用部会の様子

【地域づくりや利活用に関するご意見を踏まえた方策案】のご意見

- ・ラムサール認証自治体になった新潟市の子どもたちと、湿地再生に取り組む他国の子どもたちの交流が図れると良い。
- ・新潟県に訪れる旅行者のデータがあると戦略が立てやすくなる。今後も連携してデータを取得し続けられると良い。
- ・自治体の市長には、是非、生態系ネットワーク形成事業に入ってもらいたい。
- ・SNSで発信する際には、ハッシュタグを戦略的に統一していくための分析が重要。発信をお願いする時も、統一したキーワードとなるようにアプローチする必要がある。

【福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト実証実験】のご意見

- ・オープンカフェをどのように社会実験として活かしていくのかが重要なポイント。
- ・オープンカフェは普及啓発の一環で利用手段として進めているため、ブレが生じないような調査設計をしていきたい。
- ・地元の食材を食べながら、地元住民とオープンカフェの合意形成を図ったという話を聞いた。そのような地域資源の活用は、エコネットやカフェ運用のどちらの観点からも良いと感じた。
- ・オープンカフェを核として連動するその他のアクティビティプロダクツ案をみて、これからの可能性や発展性を感じ、とても期待できる。実験的に運用を進めていくと良い。
- ・QRコードを読み取ると、お勧めの自然環境の場所情報が得られる点も非常に素晴らしい。実際にお勧めの地点で撮影した野鳥の写真の写真を載せておくと、図鑑のような役割として使えるのではないかと感じる。合わせてレンタル双眼鏡があると良い。
- ・福島潟の魅力をまず自分たちが、認識した方が良い。地元の食材を堪能しながら福島潟の将来について語り合えればと思う。
- ・地域の農産物、文化や歴史の繋がりをガイドに紹介してもらおうと満足度が上がるのではないかと感じる。ガイドにもお金が回るような仕組みづくりができると良い。

【国機関の取組】のご意見

- ・越後平野の生態系ネットワークの農地や森林、河川などの環境が30by30の要素として登録されていくと嬉しい。
- ・生態系ネットワークを形成するには、河川管理者と農地関係者のネットワークを形成する必要がある。
- ・自然再生が目的ではなく、魅力を引き出しながら資源を利用し、資源が必要だから自然を保全する流れが重要である。

【行動計画（2030）の骨子（案）について】のご意見

- ・民間の事業者を巻き込みながら行動計画を進めると市町村も動きやすくなるのではないかと感じる。

【その他】のご意見

- ・部会で関東エコロジカル・ネットワークの視察に行ってみようかと感じる。
- ・若者は、SNSによる発信が主流となっている。福島潟の素晴らしさをスマートフォンで撮ってもらい、あげてもらえると発信が広まりやすくなるのでは。